

砂名の ベトナムに乾杯

第37回 ついに(公務員に)「テトギフト禁止令」。日本を思い出す。

毎年、ベトナムの人たちが楽しみにしているテトギフト。旧正月前に贈ったり贈られたり、日本で言う「お歳暮」ですね。

日本も昭和の昔、お歳暮が盛んな時代がありました。私の両親は公立高校の教諭をしており、毎年お中元には「カルピス」や「素麺」、お歳暮には「食用油」や「ハム」など、生徒の親御さんから贈られて来ました。子供心に毎年贈られてくる夏のカルピスに、ぶどう味など味変カルピスが加わり、ワクワクしたものです。ところが！生徒の親が教師に贈り物をする、成績に影響してよろしくないのではという理由で、「公務員は贈り物を受け取ってはいけない」というルールが定まりました。突然の通達に幼稚園児の私は「なんで受け取っちゃダメなの。絶対、他の人は受け取ってるよー」とダダをこねました。「ダメなのはダメなの、他の人はともかく、我が家では受け取らないの」と母。そのうちに同級生が、今年もらったお歳暮はどうだったこうだったと話すのを聞きつけ。「○○ちゃんちではお歳暮、受け取ってるよー」と訴えると「○○ちゃんちちは、民間企業だから良いの」。ということで、幼い私は、公務員と民間の違いを初めて認識するのでした。

それから幾星霜。荻窪に住む叔父叔母のお宅にお邪魔した時。廊下のクローゼットを開けると、床から天井までびっしり贈り物の箱が詰まっているのを発見しました。叔父は民間企業の社長をしており、



前年度のテトギフトセット。今年度はシンプルに箱入り日本酒をご用意いたしました。箱に入っていることは必須のようで、赤、金色が好まれます。

取引先から毎年、親戚中におすそ分けしても配りきれないほどの贈り物をもらうのでした。退職してからは、母も贈ったり贈られたりしていたようですが、私の中には「贈り物」はご法度と言う観念が植えつけられました。

それがベトナムでは派手な贈り物合戦にテトギフト商戦！特に日本酒は、品質の良さ、高価さ、ステイタスから、最も人気のある贈り物です。当店【蔵 KURA】Kaku-Uchi & SAKE Shop でもテトギフトをご用意しております。企業様から200本前後のご用命を賜ることもあれば、テトに帰郷するお嬢様が、お父様のためにお給料をはたいて高価な日本酒セットを購入。以前第25話「テトギフトがつなぐ人の輪」で書きました。送っていただいた写真のお父様の満面の笑みには、自慢の娘を誇りに思う気持ちにもじみ出ていて、拝見しているこちらも胸が熱くなります。

さて、それが突然、今年の12月に入っ

て国会で「テトギフト禁止令」が発令されたのです。これまでに何度も俎上に上っていたようで、度を越えた高額なもの、札束を忍ばせてあるなど、「便宜を図ることへの要求」が込められている場合が多々あり。とにもかくにも「公務員」は受け取ってはならぬ、とキツク言い渡されたのでした。罰則等はまだないようですが、テトギフトは一年でもっとも景気が活性化される時期だけに、ただでも観光業は戻らない、不景気、リストラの嵐のベトナムでは、打撃を受けている方たちも少なくないのではないのでしょうか。ですが日本のケースと同じく、今回の通達は「公務員」に限った話のようで、「含み」のない感謝の気持ちを伝える「ギフト」が民間でやり取りされる分には差しさわりがないでしょう。というわけで、これまで程ではありませんが、今年も企業様からテトギフトの発注をいただきました。ありがとうございました。



月森砂名(つきもりさな)

奈良県出身。同志社大学卒業。2015年、ベトナム初の角打ち【日本酒で乾杯!】に続き、2020年、Pham Viet Chanhにて日本酒専門の「角打ちのある酒屋」【蔵 KURA】をオープン。経営に携わる。東京で舞台撮影や制作の仕事をする傍ら、作家活動を行う。2009年よりNPO法人Layer Boxにて、日本の伝統文化について、大学、高校、専門学校とともに、PV、3D、CGなどのコンテンツ制作および世界発信を行う。